

たまたま受けた授業でこのスタディーツアーのことを知り、楽しそうだから、ケニアなんてそう行く機会もなさそうだからと、きっかけはとてもささいな好奇心からでしたが、応募し、今回すばらしい 3 人の仲間とともに、ケニアでの想像をも超える様々な出会い、体験ができたこと、日本に帰ってきた今、改めて幸せに感じています。

二週間のケニア生活のなかで私が今回最もよい経験ができたと思えるのはやはり、エルドレットの村での 5 泊のホームステイです。

私がお世話になった家庭は、7 人兄弟の 9 人家族という大家族の家庭でした。初日にはじめて家に訪れたとき「意外とやっていけそうだな」と思ったのですがそれは、ベッドには蚊帳があったこと、リビングにはソファ、机があり、すべてに布がかけられていたからという、見た目からの単純な理由からでありました。

5 泊自分はホームステイをするのだとわかってはいたものの、ケニアの村でのホームステイが一体どのような生活をして過ごすものなのかはまったくわかっていませんでした。

しかし終わってみたいま、想像をくつがえされたなと思うことは、水道も電気もないなかで、シャワーも一度も使わないことにも慣れ、毎日毎食、日本で以上におなかいっぱいご飯を食べたこと、毎晩ぐっすり眠れたこと、そして毎晩日本では決してみることでできない数の星と天の川を見て心を癒すことができたことです。

初日、2 日目、5 日目は昼過ぎまで道なおしの仕事を手伝い、そのあとは家族や近所の親子と遊び、ご飯を食べて寝る、3 日目はエルドレットのスラムなどに行き、4 日目はままとばとバイクに 3 人乗りをし、教会に散れていってもらおうという生活をしました。

ホームステイのあと私たちは首都ナイロビに行ったのですが、村での 5 日間の生活はナイロビからは想像もつかないなと思いました。5 日間村で生活するケニアの人々とふれあい、様々な思いをケニアの人に抱きました。

私のようにケニアやアフリカのことを表面上でしか知らないような人は、アフリカの村といえば難民を思い、かわいそうだと思うかもしれません。私が行った村はケニアのほんの一部ですが、そこに住む人々は大人も子供もみな毎日多くの友達と幸せそうに楽しそうに笑顔をたやさないし、ご飯を食べること、家族といれること、そんなことにすごく幸せを感じているように思いました。

この道がだめなら遠回りして違う道を行けばいい。頑張ってつかれたなら休めばいい。ほしいならほしいと言えればいいし、いらないものはそこに捨てればいい。昨日した約束は次の日には忘れていくかもしれない。ケニアにはケニアの文化があり、彼らはそこでとても幸せそうにしていました。そして私はそこで日本はなんてすばらしい国なんだと思いました。だれにでも祖国があり、だからこそほかの国に憧れもするけれど、みな、やっぱり自分の祖国が好きなんだと感じました。ケニアの人も日本の人もどこの人もそれは同じだ

と思います。

この二週間ケニアですごして感じた思いを、これからの人生で忘れずに大切にしていきたいです。

おそらくホームステイ中にバクテリアにやられ、ケニアでは 2 度も病院に通い、現地にいらっしゃる松本さん、喜田さん、本庄さんには大変ご迷惑をおかけしました。そしてこのような機会をあたえてくださった木村先生、酒井さんにはとても感謝しております。また何より、行きたいといけば色々言いながらも行かしてくれる家族のみんなに感謝しています。



ホームステイ先とその近所の子供たち
彼らと歌いながら近所の家をたくさんまわりました。



お世話になったホームステイさきのママです。
毎日違った料理を出してくれました。
ケニアのことをたくさん教えてくれました。



ホームステイ先のパパのバイクです。

ママとパパが私を挟んで、3人のりをし、教会までこのようながたがたの道を進みました。
大きな水たまりもバイクで進んだりして、とても楽しかったです。



みんな、ホームステイ先の子どもたちです。最初のころ寂しかったのですが、彼らの笑顔で元気になりました。また会いたいです！



マサイマラに行ったときにいたマサイ族です。とても商売が上手でした。